

2010 年度報告書（研究員）

氏 名	林由華
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>本年度は、琉球語宮古池間方言の記述研究を進めつつ、琉球語全体の歴史・言語変化に関わる研究も行った。</p> <p>まず、琉球語全体を視野に入れた歴史変化に関わる研究として、琉球語各地方言の動詞の連続体のあり方及びそこに用いられる動詞の形態を、主に二次資料を用いて比較検討した。そこで、日本語、北琉球語、南琉球語が異なっており、日琉祖語の段階で未発達だった動詞の連続体が分岐後それぞれの手法を発達させたと考えられることを示した。この成果は[1]で発表している。</p> <p>池間方言の記述研究としては、本方言の係り結びやレキシカルトーンについての調査・研究を進めた。係り結びの研究は、前年度までの成果を元に[2]の発表を行った。レキシカルトーンの研究としては、これまで2種類とされていたものが実は3種類あるということ、音響音声学的手法によって示し、[3]で発表した。なお、この研究では主にデータ収集補助を担っている。</p> <p>また、池間方言の記録・保存およびアウトリーチ活動の一環として、当方言話者の作る絵本の編集補助を行った。（この絵本は、年度内に出版される予定である。）</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p><学会発表></p> <p>[1] 林由華・トマ＝ペラルール「宮古語における動詞の連続体と接続形」 The 2nd Workshop on Ryukyuan Languages and Linguistic Research (琉球大学、2010年8月6日～7日)</p> <p>[2] Yukinori Takubo and Yuka Hayashi "Kakari-musubi in Ikema Ryukyuan" 20th Japanese/Korean Linguistics Conference (University of Oxford, October 1-3, 2010)</p> <p>[3] Yosuke Igarashi, Yukinori Takubo, Yuka Hayashi, and Tomoyuki Kubo "Ikema Ryukyuan has three, not two, lexical tones" The 17th Workshop on East Asian Languages (University of California, Los Angeles, March 18-19, 2011)</p>	

